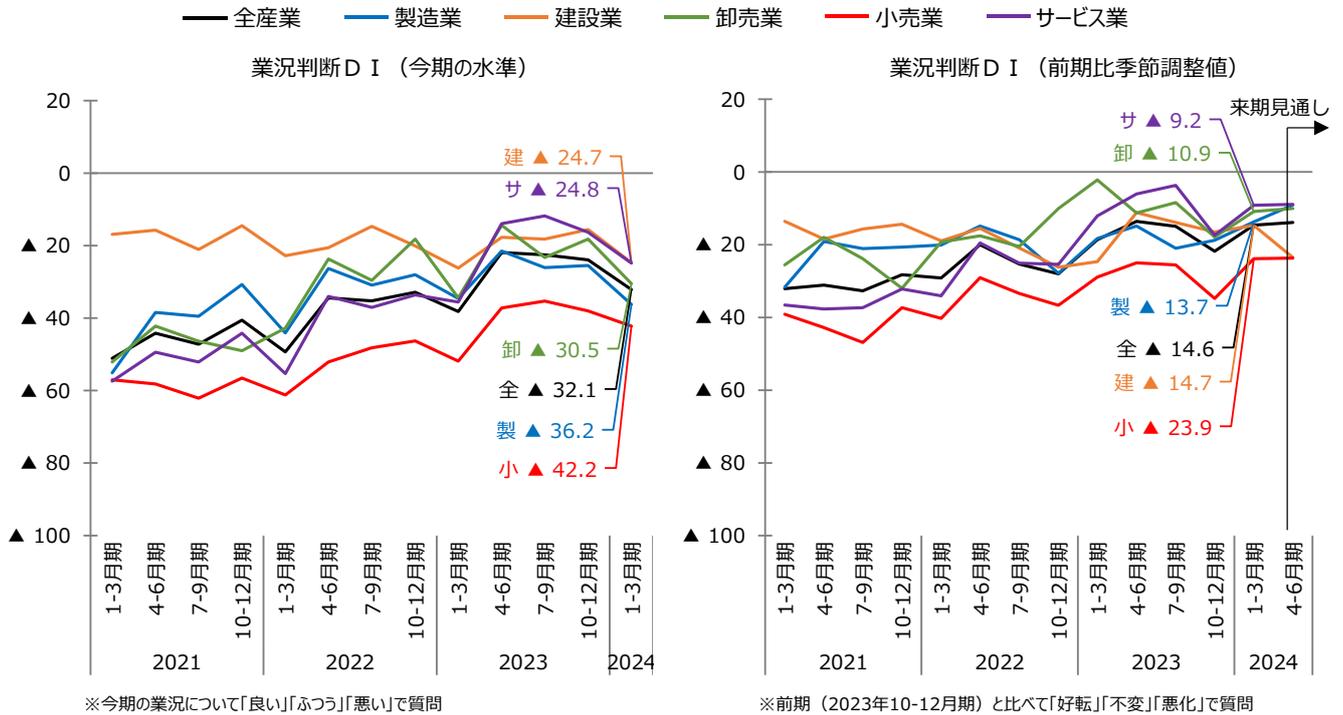


第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 東北



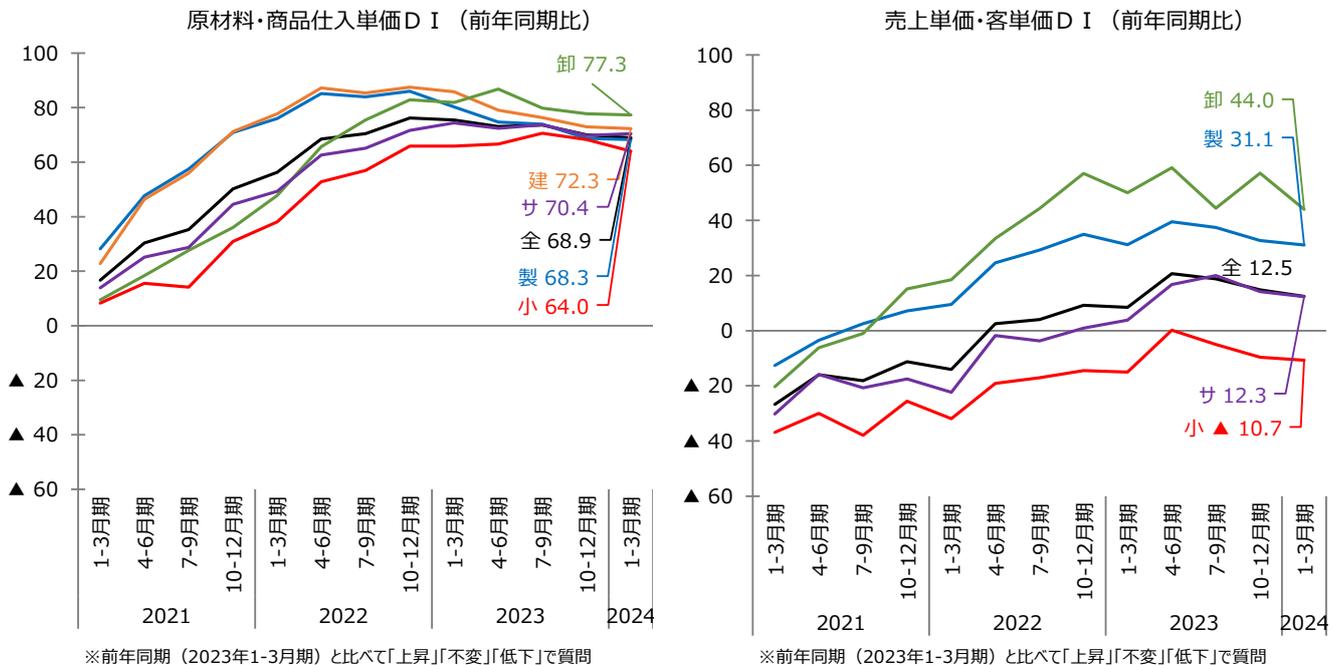
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より8.2ポイント減の▲32.1と3期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の68.9と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、建設業、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の12.5と3期連続して低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、東北：1,854企業

※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

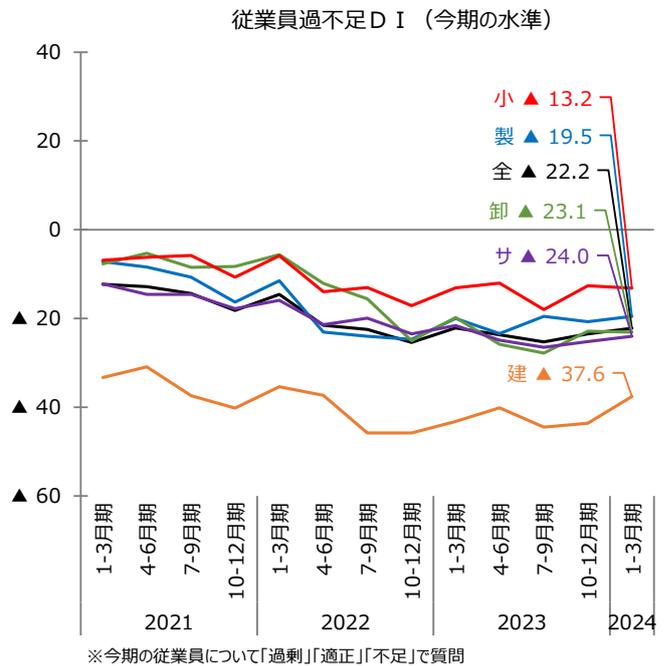
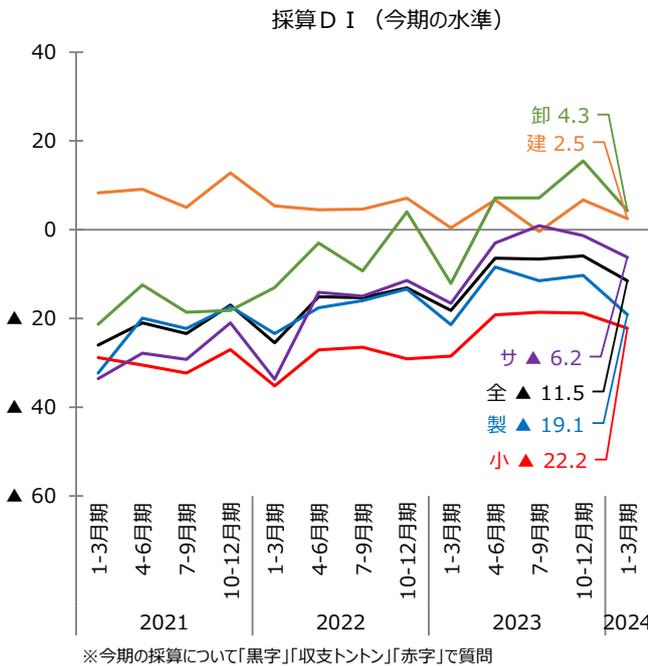
第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 東北

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より5.6ポイント減の▲11.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.3ポイント増の▲22.2と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業で上昇、小売業、卸売業で低下した。



5. 東北の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	注文や引合いは増えているが、単価も悪くないが、手間のかかる仕事が多く、日程調整に苦慮する。	製造業 建具製造業
	昨年、若手を3名雇用しましたが、熟練技術者の定年退職があり、教え手が不足している状況です。	建設業 一般電気工事業
	諸物価の上昇に賃上げが追い付いていないため、生活必需品であっても、需要が伸び悩み傾向にあると感じています。この春の賃上げが、中小企業までしっかりと実施されることが極めて重要と考えております。	卸売業 生鮮魚介卸売業
	販促に繋がる設備投資を計画しているが、円安の影響で機材が高騰し、資金繰りが大変で、なかなか導入したくてもできない状況である。	小売業 スポーツ用品 小売業
見通し	インバウンド増加により、観光業は盛況感が増してきているが、従業員不足などにより対応しきれず、また、同日に予約が集中してしまい、受入できないことなどがあり、売上も伸びきれていない。	サービス業 一般貸切旅客 自動車運送業
	単価上昇も、数量低迷が続くそうで、不安感が拭えない。来年度は、2024年問題の影響も、色々な方面で、出てくると予想している。	製造業 生コンクリート製造業
	材料価格が上昇しているが、単価も上昇しているため、相殺されている。今後も、材料価格が上昇し続ける場合には、状況が変わるかなと考える。	建設業 一般土木建築工事業
	全体的に量販店の業績が好調であり、県内外の量販店を主要顧客としている我が社の業績を押し上げている。新年度も活発に新店、改装などが行われる計画もあり、より丁寧かつ役に立つ提案を行い、売上を確保したい。	卸売業 生鮮魚介卸売業
	最低賃金の上昇により、人件費全体が毎年のように増加しています。人員不足に対応する為に、募集時の給与を高くしても、応募は来ず。今年は、新紙幣対応の釣銭機も導入しなければならず、相変わらず、状況改善は見えて来ない。	小売業 ガソリンスタンド
コロナ融資のゼロ金利が終わって、今後は借入金の負担が増加する点が懸念事項。	サービス業 受託開発ソフトウェア業	

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。